

手に入りたい 四つの道具

人間牧場主 若松 進一



のまちづくりへの意識のなさ
や不参加は将来に暗い影
を落しています。でも

少し視点を変えて若
者の姿を追ってみ
ると意外な所で若
者たちの新しいま
ちづくりへの芽生
えが起こっている
のです。

愛媛の地域づくり
をリードする「えひめ地
域づくり研究会」では、

今年で20周年を迎えるのを機に

リレーシンポジウムを企画しました。宇
和島（この地域の進む道―生き残るため
の方策、新居浜（笑顔が結ぶネットワー
クの再構築）、今治（絆）、松山（21世紀
むら・まちのかたち）と議論をつないで
きましたが、今治会場となった四国霊場
五十八番札所仙遊寺で三様の素敵な若者
たちに出会いました。

アナログテレビがデジタル
テレビに変わろうとしたり、インター
ネットや携帯電話の普及によって私たち
の暮らしは否応なしに情報化社会へと急速
に突き進んでいます。一方では市町村合
併によって行政が広域再編されて、行政
サービスが庶民の暮らしから遠のくと
いった不平不満が新たに生まれ、進化と
後退という振れ現象が起こって現代社会
は世代間や地域社会間のコミュニケーション
が取りにくくなりつつあるよう
です。まちづくりの現場ではそうした現
象を反映してか、ひと頃のようなエネル
ギッシュな地域づくりの事例が影を潜め
つつあり、そのことを危惧する声が出始
めていることも事実です。とりわけ若者

まず驚いたのは会場の窓面を飾ってい
た膨大な今治の写真でした。記憶を記録
する手法として古い写真を集めることは
容易なことではありませんが、えひめ地
域政策研究センター主催の今年度人材育
成塾に学ぶ若いメンバー2人は写真展を
企画し予想以上の大きな反響を呼んだの

です。学びの成果は数年後という人づく
りの遅効性が問題視される中で、こんな
に早い立ち上がりは驚きだし、若者の得
意分野とされる写真情報のデジタル化に
今後の成果が期待できるだけに、大きな
拍手を送りたい心境でした。

続いてFMラヂオ・バリバリのDJボ
ランティアとして活動が続けている高校
2年生2人の話を聞きました。DJで慣
れているのか実に明快で楽しい話を聞か
せてくれましたが、聞くところによると





災面にも深く絡んだ活動に高校生や若者たちが参加する姿は都市型の新しいまちづくりのかたちではないかと思うのです。

今治青年農業者協議会渡辺さん(大三島)の話もユニークでした。グリーンツーリズムやスローツーリズム、地産池消など、農業は3K産業といわれながらも追い風が少しずつ吹きつつあるようです。農業の現場にはかつてのように若者がひしめき合ってきた時代ではなく、後継者の数もちらほらのようですが、トレーサビリティなどを導入しながら安全で安心な食糧を供給してゆけば必ず生

その日は試験中とかでした。しかしDJ活動を通してふるさとの姿や大人の生き方、さらには自分の主張が述べられるようになったことを楽しく話してくれました。FMラヂオ・バリバリの果たす役割は地域密着の情報流すまちづくり型であり、防

き残れると、自信を持って島に生きている姿は頼もしい限りです。ややもすると少ない若者間や異性間の交流も知恵を使つて交流しているようでした。

余談になりますが、このシンポジウムを開くにあたり、デモンストレーションで1人の若者が人前で看板を大書しました。書家らしいその文字はド迫力で会場を沸かせました。

私はこれら若者の姿を頼もしく見ながら若い頃の自分と重ね合わせてみたのです。私は青年団というかつてはこの町や村にでもあった組織に入り、仲間、ふるさと、主張、感動という人間が人間として生きて行く時必要な四つの道具を手に入れました。

①仲間——人間は決してひとりでは生きてゆけません。多くの仲間が必要なのです。日本はアメリカに見習って個人主義が尊重されるようになってきましたが、地域や団体には古い体質があるものの手つなぎから手放しの連帯を目指して活動すれば何ら問題はないのです。いい仲間を沢山持つことは人生にとってかけがえのない宝物なのです。

②ふるさと——自分の住んでいるふるさとを愛するためには、生かされて生きるためのお返しをしなければなりません。楽しさや新しさや美しさを求めながらより

住みやすくすることはボランティアの原点だと思ふのです。夕日によるまちづくりや長年やった人口海浜の清掃もふるさとを良くしたい一念からなのです。ふるさとの物語をつくり物語を演じながら自らふるさとの誇りを語る語り部となる努力を一生続けたいものです。

③主張——世の中は言うべき時に言わず言わなくてもいいことを言う悪い癖を持つた人間が多いように思われます。人の前で自分の主張を述べられる努力は若い頃から積み重ねだと思ふのです。若い頃NHK青年の主張で発表できたり青年団長としてあいさつができるようになった訓練が今に生きているのです。

④感動——感動は感動という作用によって相手の心に点火されます。感動しない人間は相手に感動を伝えられないのです。体験で得た感動は社会を生きるヒューマンな心を育てるのです。人の喜びを喜びとしたり、悲しみを悲しみと感ずる心は今の日本に最も欠けていることかも知れません。

三つの事例で知り合った若者たちはまだこの四つの道具の存在に気付いてはいませんが、今やつてる活動をしっかりと続けるなら、やがてまちづくりに必要なこの四つの道具は必ず手に入れることができるものと確信しています。